

研究分担者： 上平 朝子 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 免疫感染症科医長)

研究協力者： リンパヤラヤ・スプラーニー (エクセル・インターナショナル)

北岡 征毅 (立命館大学学生サポートルーム)  
藤山 佳秀 (滋賀医科大学医学部附属病院)  
小泉 祐介 (滋賀医科大学医学部附属病院)  
北村 憲一 (滋賀医科大学医学部附属病院)  
真鍋 亜朱 (滋賀医科大学医学部附属病院)  
川根 伸夫 (滋賀医科大学医学部附属病院)  
高折 晃史 (京都大学医学部附属病院)  
小林 正行 (京都大学医学部附属病院)  
尾崎 淳子 (京都大学医学部附属病院)  
伊藤 涼子 (京都大学医学部附属病院)  
中井 まや (京都大学医学部附属病院)  
日笠 聡 (兵庫医科大学病院)  
澤田 暁宏 (兵庫医科大学病院)  
伊賀 陽子 (兵庫医科大学病院)  
高橋 正子 (兵庫医科大学病院)  
古西 満 (奈良県立医科大学附属病院)  
石川しのぶ (奈良県立医科大学附属病院)  
園木 孝志 (和歌山県立医科大学附属病院)  
岩城 久弥 (和歌山県立医科大学附属病院)  
廣橋 良郎 (和歌山県立医科大学附属病院)  
岩佐 裕司 (和歌山県立医科大学附属病院)  
小谷 典子 (和歌山県立医科大学附属病院)  
大谷 成人 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)  
富成伸次郎 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)  
吉野 宗宏 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)  
岡本 学 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)  
安尾 利彦 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)  
下司 有加 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)

研究分担者： 木村 昭郎 (広島大学病院 血液内科教授)

研究協力者： 高田 昇 (広島大学病院 輸血部)  
藤井 輝久 (広島大学病院 輸血部)  
齋藤 誠司 (広島大学病院、エイズ予防財団リサーチレジデント)  
畝井 浩子 (広島大学病院 薬剤部)  
藤田 啓子 (広島大学病院 薬剤部)  
太刀掛咲子 (広島大学病院 薬剤部)  
関野 由希 (広島大学病院 薬剤部)  
喜花 伸子 (広島大学病院、エイズ予防財団リサーチレジデント)  
鍵浦 文子 (広島大学病院、エイズ予防財団リサーチレジデント)  
船附 祥子 (広島大学病院 エイズ医療対策室)  
濱本 京子 (広島大学病院、エイズ予防財団リサーチレジデント)  
小川 良子 (広島大学病院 看護部)  
大下 由美 (県立広島大学 保健福祉学部)  
松本 俊治 (広島市立広島市民病院 薬局)  
高木 敏之 (近畿厚生局 麻薬取締部鑑定室)  
山野 尚美 (京都府立大学 公共政策学部)  
榎本てる子 (関西学院大学 神学部)  
小野 恵子 (愛媛大学医学部附属病院 ソーシャルワーカー)  
河村 順子 (川崎医科大学附属病院 ソーシャルワーカー)  
桑内 敬子 (徳島大学病院 ソーシャルワーカー)  
竹中 雄一 (県立広島病院 ソーシャルワーカー)  
玉野緋呂子 (国立病院機構呉医療センター ソーシャルワーカー)  
中澤知早子 (高知大学医学部附属病院 ソーシャルワーカー)  
宮本恵理子 (国立病院機構福山医療センター ソーシャルワーカー)  
高砂 直明 (山口大学医学部附属病院 ソーシャルワーカー)  
古永 智子 (国立病院機構関門医療センター ソーシャルワーカー)  
平田 優子 (国立病院機構山陽病院 ソーシャルワーカー)  
森口はるな (香川大学医学部附属病院 ソーシャルワーカー)  
安川 温子 (香川県立中央病院 ソーシャルワーカー)  
安岡 彰 (長崎大学医学部歯学部附属病院 感染制御教育センター 医師)  
西田 恭治 (国立病院機構大阪医療センター 免疫感染症科 医師)  
五十嵐 俊 (横浜市立市民病院 薬剤部 薬剤師)  
関根 祐介 (東京医科大学病院 薬剤部 薬剤師)  
原 健 (大阪医療センター 薬剤科 副薬剤科長)  
奥村 直哉 (名古屋医療センター 薬剤科 薬剤師)  
田上 直美 (熊本大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師)  
井門 敬子 (愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師)  
○江 ○：  
○江 ○：  
○水 ○夫：

研究分担者： 山本 政弘 (独立行政法人国立病院機構九州医療センター 免疫感染症科/感染症対策室長)

研究協力者： 吉野 宗宏 (国立病院機構大阪医療センター)  
杉浦 互 (国立病院機構名古屋医療センター)  
外川 正生 (大阪市立総合医療センター)  
井村 弘子 (沖縄国際大学)  
古谷野 淳子 (新潟大学医歯学総合病院)  
鯉 陽子 (結核研究所)  
松下 修三 (熊本大学エイズ学研究センター)  
宮川 寿一 (熊本大学エイズ学研究センター)  
安岡 彰 (長崎大学医学部歯学部附属病院)  
尾崎 岩太 (佐賀大学医学部附属病院)  
橋口 照人 (鹿児島大学病院)  
平松 和史 (大分大学医学部附属病院)  
菊池 郁夫 (県立宮崎病院)  
本松 由紀 (福岡県派遣SW)  
首藤美奈子 (福岡県派遣SW)  
阪木 淳子 (福岡県派遣CO)  
米山 朋子 (福岡県派遣CO)  
草野 幸将 (九州大学大学院)  
南 留美 (国立病院機構九州医療センター)  
高濱宗一郎 (国立病院機構九州医療センター)  
安藤 仁 (国立病院機構九州医療センター)  
城崎 真弓 (国立病院機構九州医療センター)  
長与由紀子 (国立病院機構九州医療センター)  
辻 麻理子 (国立病院機構九州医療センター)  
高橋真梨子 (国立病院機構九州医療センター)  
堀田 飛香 (国立病院機構九州医療センター)  
井上 緑 (国立病院機構九州医療センター)

研究分担者： 前田 憲昭 (医療法人社団皓歯会理事長)

研究協力者： 糸数 公 (沖縄県庁福祉保健部健康増進課 結核感染症班 班長)  
波名城恭子 (沖縄県庁福祉保健部健康増進課 成人保健班 主任技師)  
高良 謙次 (沖縄県歯科医師会 学術担当 理事)  
健山 正男 (琉球大学大学院医学研究科 感染症制御学講座 分子病態感染症学分野 准教授)  
砂川 元 (琉球大学大学院医学研究科 高次機能医科学講座 顎顔面口腔機能再建学分野 教授)  
新崎 章 (琉球大学大学院医学研究科 高次機能医科学講座 顎顔面口腔機能再建学分野 准教授)  
新垣 敬一 (琉球大学大学院医学研究科高次機能医科学講座 顎顔面口腔機能再建学分野 講師)  
藤井 信男 (沖縄県立中部病院 歯科口腔外科 部長)  
山本 正弘 (国立病院機構九州医療センター 免疫感染症科 部長)  
吉川 正博 (国立病院機構九州医療センター 歯科口腔外科 部長)  
溝部 潤子 (神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科 准教授)  
波名城恭子 (沖縄県庁 歯科医師)  
嘉数 武雄 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
玉城 美香 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
新城美由紀 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
比嘉 綾乃 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
当山はるか (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
野村みゆき (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
喜屋武ハルカ (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
森 誠 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
知花 政子 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
垣花 賢 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
玉城 菜月 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
安里 博 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
吉濱 勝子 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
徳嶺千佳子 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
金城 尚典 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
福里 英彦 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
上地美由紀 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
奥浜 眞子 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
井 麗美 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)  
長峰友里子 (沖縄県歯科医師会 歯科助手)  
大山 純子 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
金城 孝 (南部徳州会病院 歯科医師)  
藤井 信男 (県立中部病院 歯科医師)  
浦崎 洋子 (県立中部病院 歯科衛生士)  
新垣 麻乃 (県立中部病院 歯科衛生士)  
安慶田さおり (県立南部医療センター 歯科医師)  
仲村 秀太 (琉球大学 第1内科)  
中曾根 勇 (琉球大学 検査部)  
藤井亜矢子 (琉球大学 口腔外科)  
嘉数由美子 (琉球大学 口腔外科)  
仲宗根敏幸 (琉球大学 口腔外科)  
宮城 幸子 (琉球大学 看護師)  
安里 博 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)  
吉濱 勝子 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)

- 嘉数 武雄 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)
- 玉城 美香 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)
- 垣花 賢 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)
- 玉城 菜月 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)
- 福里 英彦 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)
- 上地美由紀 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)
- 奥浜 眞子 (沖縄県歯科医師会 歯科医師)
- 井 麗美 (沖縄県歯科医師会 歯科衛生士)
- 長峰友里子 (沖縄県歯科医師会 歯科助手)
- 大城美知枝 (県立南部医療センター 歯科衛生士)
- 藤井 信男 (県立中央病院 歯科医師)
- 新崎 章 (琉球大学医学部 顎顔面口腔機能再建学分野 准教授)
- 新垣 敬一 (琉球大学医学部 顎顔面口腔機能再建学分野 講師)
- 又吉 亮 (琉球大学医学部 顎顔面口腔機能再建学分野 大学院生)
- 知花ゆき子 (付属病院 歯科衛生士)
- 玉井 和樹 (慈恵会医科大学)
- 茂木 伸夫 (都立駒込病院)
- 高野直久先 (東京都歯科医師会)
- 柿澤 卓 (東京歯科大学水道橋病院 院長)
- 筑丸 寛 (横浜市立大学)
- 浅井 澄人 (千葉県歯科医師会)
- 松見 秀之 (埼玉県歯科医師会)
- 植竹 由明 (日本歯科医師会 事業部 地域保健課)
- 中川裕美子 (国立国際医療センター エイズ治療研究開発センター (ACC))
- 北川 善政 (北海道大学大学院 教授)
- 秋野 憲一 (北海道庁)
- 烏谷部純行 (北海道歯科医師会)
- 山口 泰 (国立病院機構仙台医療センター)
- 池田 正一 (神奈川歯科大学)
- 小森 康雄 (東京医科大学)
- 田上 正 (国立国際医療センター)
- 柿澤 卓 (東京歯科大学水道橋病院)
- 高木 律男 (新潟大学大学院)
- 宇佐美雄司 (刈谷豊田総合病院)
- 澤木 佳弘 (国立名古屋医療センター)
- 連 利隆 (大阪市立総合医療センター)
- 宮田 勝 (石川県立中央病院)
- 吉野 宏 (広島大学病院)
- 樋口 勝規 (九州大学大学院 教授)
- 吉川 博政 (国立病院機構九州医療センター 口腔外科)
- 山本 正弘 (国立病院機構九州医療センター)
- 溝部 潤子 (神戸常盤大学短期大学部)
- 竹本奈緒美 (医療法人社団皓歯会)
- 三村 文子 (医療法人社団皓歯会)
- 藤本 千夏 (医療法人社団皓歯会)
- 下平 徹 (長野県庁衛生部健康づくり支援課)
- 平林 辰夫 (長野県歯科医師会常務理事)

山崎 嘉隆 (信州大学医学部)  
倉科 憲治 (信州大学医学部 教授)  
栗田 浩 (信州大学医学部 准教授)  
小池 剛史 (信州大学医学部)  
小山 典枝 (信州大学医学部)  
太田 千史 (信州大学医学部)  
太谷 有香 (信州大学医学部)  
宮澤 英樹 (国立長野病院)  
宮下知栄美 (国立長野病院)  
横林 敏夫 (長野赤十字病院)  
五島 秀樹 (長野赤十字病院)  
山本 綾乃 (長野赤十字病院)  
松島凜太郎 (佐久総合病院)  
相原 光子 (佐久総合病院)  
峰村 俊一 (飯田市立病院)  
朝比 朱紀 (飯田市立病院)  
田邊 嘉也 (新潟大学大学院)  
高木 律男 (新潟大学大学院)  
児玉 泰光 (新潟大学大学院)  
池野 良 (新潟大学大学院)  
佐々木知一 (大館市立総合病院 歯科口腔外科)  
青木 眞 (サクラ精機)  
岩室 伸也 ((社) 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター)  
松井紗也子 (東京歯科大学)

研究分担者： 島田 恵 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター看護支援調整官)

研究協力者： 遠藤 貴子 (東京大学大学院 医学系研究科 成人看護学)  
西垣 昌和 (東京大学大学院 医学系研究科 成人看護学)  
数間 恵子 (東京大学大学院 医学系研究科 成人看護学)  
渡部 恵子 (北海道大学病院)  
大野 稔子 (北海道大学病院)  
武藤 愛 (NHO仙台医療センター)  
疋田 美鈴 (NHO仙台医療センター)  
相馬みさ子 (新潟大学医歯学総合病院)  
川口 玲 (新潟大学医歯学総合病院)  
山下 郁江 (石川県立中央病院)  
山田三枝子 (石川県立中央病院)  
高山 次代 (石川県立中央病院)  
鍵浦 文子 (広島大学病院)  
小川 良子 (広島大学病院)  
荒井 理那 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
伊藤 紅 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
八鍬 類子 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
杉野 祐子 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
石垣今日子 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
山田 由紀 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
武田 謙治 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
大金 美和 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
池田 和子 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
湯永 博之 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)  
岡 慎一 (国立国際医療センター戸山病院 エイズ治療・研究開発センター)

研究分担者： 山中 京子 (大阪府立大学 人間社会学部準教授)

研究協力者： 阿曾加寿子 ((財)北海道難病連)  
荒井アオイ (東京都福祉保健局 健康安全部 感染症対策課 エイズ対策係)  
石川 雅子 (千葉県健康福祉部 健康増進課 感染症対策室)  
石川 嘉彦 (横浜市健康福祉局 健康安全部 健康安全課)  
内野 悌司 (広島大学保健管理センター)  
大谷ありさ (独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 臨床心理室)  
大下 由美 (県立広島大学 保健福祉学部)  
大場 清隆 (北九州市子ども家庭局子ども総合センター)  
奥田 剛士 (大阪府健康福祉部 保健医療室 地域保健感染症課)  
尾谷 ゆか (北海道大学病院)  
神谷 昌枝 (東京都福祉保健局 健康安全部 感染症対策課 エイズ対策係)  
川瀬公美子 (メンタルサポートオフィスひといき)  
菊池恵美子 (国立病院機構名古屋医療センター 財団法人エイズ予防財団)  
北 志保里 (石川県立中央病院HIV事務室 財団法人エイズ予防財団)  
兒玉 憲一 (広島大学大学院教育学研究科)  
古谷野淳子 (新潟大学医歯学部総合病院)  
阪木 淳子 (福岡県保健医療介護部)  
佐藤 愛子 (国立病院機構仙台医療センター 財団法人エイズ予防財団)  
椎村 和義 (りょうちゃんず)  
品川 由佳 (広島大学大学院教育学研究科)  
鈴木 葉子 (滋賀県健康福祉部 健康増進課)  
辻 麻理子 (国立病院機構九州医療センター)  
土居加寿子 (大阪市保健所)  
仲倉 高広 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 臨床心理室)  
中島 弘徳 (岡山理科大学理学部基礎理学)  
西本 末子 (近森病院第二分院)  
橋本 則久 (りょうちゃんず)  
花澤 佳子 (千葉県健康福祉部 健康増進課 感染症対策室)  
早坂 典生 (りょうちゃんず)  
早林 綾子 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 臨床心理室)  
藤本 恵理 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 臨床心理室)  
藤原 良次 (りょうちゃんず)  
牧野真由子 (新潟大学医歯学部総合病院)  
森田 眞子 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 臨床心理室)  
水越 三佳 (共立蒲原総合病院)  
安尾 利彦 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 臨床心理室)  
吉田 幸子 (東京都福祉保健局 健康安全部 感染症対策課 エイズ対策係)  
吉田 容子 (東京都福祉保健局 健康安全部 感染症対策課 エイズ対策係)  
渡辺 澄子 (埼玉県保健医療部疾病対策課)



---

研究分担者： 田中千枝子 (日本福祉大学 社会福祉学部教授)

---

研究協力者： 山下美津江 (石川県立中央病院)  
三嶋 一輝 (福井大学附属病院)  
奥村ますみ (富山大学附属病院)  
富田 健一 (北海道大学病院)  
本松 由紀 (福岡県保健医療介護部 保健衛生課)  
小西加保留 (関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科)  
小林美佐江 (新潟県福祉保健部 保健対策課)  
小松美智子 (武蔵野大学 社会福祉学科)  
瀧澤 学 (神奈川県リハビリテーションセンター)  
山内 哲也 (社会福祉法人武蔵野会)  
葛田 衣恵 (千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部)  
加賀城津多子 (訪問看護ステーション てまり)  
中倉智恵美 (川崎医科大学附属病院 患者診療支援センター)  
和田 秀穂 (川崎医科大学附属病院 血液内科)  
尾崎 新 (立教大学 コミュニティ福祉学部)

---

研究分担者： 白阪 琢磨 (独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター)

---

研究協力者： 井出 博生 (東京大学医学部附属病院)  
赤羽 学 (奈良県立医科大学)  
野口久美子 (奈良県立医科大学)  
三宅 好子 (奈良県立医科大学)  
片岡 香苗 (奈良県立医科大学)  
吉村満美子 (奈良県立医科大学)  
藪ノ内真子 (奈良県立医科大学)

研究分担者： 湯永 博之 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター治療開発室長)

研究協力者： 今村 顕史 (東京都立駒込病院 感染症科)  
小田原 隆 (東京大学医科学研究所附属病院 感染症内科)  
小島 賢一 (荻窪病院血液科)  
村松 崇 (東京都立駒込病院 感染症科)  
榎谷 法生 (国立国際医療センター 産婦人科)  
中田たか志 (中田歯科クリニック)  
中村 造 (東京都立墨東病院 感染症科)  
岡 慎一 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
菊池 嘉 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
照屋 勝治 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
本田美和子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
田沼 順子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
矢崎 博久 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
塚田 訓久 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
本田 元人 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
渡辺 珠代 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
渡辺 恒二 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
神村麻穂子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
柳沢 邦雄 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
田里 大輔 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
中村 春香 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
西島 健 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
島田 恵 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
池田 和子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
大金 美和 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
武田 謙治 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
山田 由紀 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
杉野 祐子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
石垣今日子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
荒井 理那 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
伊藤 紅 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
八鍬 類子 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
林田 庸総 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

---

研究分担者： 満屋 裕明（熊本大学 医学薬学研究部血液内科学分野教授）

---

研究協力者： 関 康博（熊本大学医学薬学研究部血液内科学・感染免疫診療部 特定事業研究員）

---

研究分担者： 杉浦 互 (国立感染症研究所エイズ研究センター研究員)

---

研究協力者： 小田原 隆 (東京大学医科学研究所)  
湯永 博之 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)  
白阪 琢磨 ((独)大阪医療センター)  
西澤 雅子 (国立感染症研究所エイズ研究センター)  
宮崎菜穂子 (国立感染症研究所エイズ研究センター、東京大学医科学研究所)  
横幕 能行 ((独)名古屋医療センター)

## 研究成果の刊行に関する一覧

1. 橋本里奈、向井栄一郎、横幕能行、間宮均人、濱口元洋：HIV脳症5例の臨床的特徴と経過。臨床神経48: 173-178, 2008.
2. HIV・HCV重複感染症診療ガイドライン 改訂第3版（平成20年11月刊行）。北海道大学病院HIV・HCV重複感染症診療委員会。
3. Heartec 改訂第3版（平成20年11月刊行）。北海道大学病院HIV・HCV重複感染症診療委員会。
4. 平成20年度北海道HIV/AIDS医療者研修会記録集（平成21年3月刊行予定）。北海道大学病院HIV感染症委員会。
5. 伊藤俊広、佐藤愛子、小倉美緒、藤原千春、鈴木智子：平成20年度東北AIDS/HIV心理・福祉連絡会議報告書（平成21年2月発行）
6. 伊藤俊広、飯塚好子、佐藤麻希、鈴木智子：平成20年度東北AIDS/HIV薬剤師連絡会議報告書（平成21年2月発行）
7. Fujiwara M, Tanuma J, Koizumi H, Kawashima Y, Honda K, Matsuoka AS, Dohki S, Oka S, Takiguchi M: Accumulation of HIV-1 escape mutant by different responses of escape mutant-specific cytotoxic T cells to escape mutant and wild-type HIV-1 in new hosts. *J Virol* 82: 138-147, 2008, Epub 2007 Oct 24.
8. Hayashida T, Gatanaga H, Tanuma J, Oka S: Effect of low HIV-1 load and antiretroviral treatment on IgG-capture BED-enzyme immunoassay. *AIDS Res Hum Retrovirus* 24: 495-498, 2008.
9. Ueno T, Motozono C, Douki S, Mwimanzu, Rauch S, Fackler OT, Oka S, Takiguchi M: Cytotoxic T lymphocyte-mediated selective pressure influences dynamic evolution and pathogenic functions of HIV-1 Nef. *J Immunol* 180: 1107-16, 2008
10. Kawashima Y, Satoh M, Oka S, Shirasaka T, Takiguchi M: Different immunodominance of HIV-1-specific CTL epitopes among 3 subtypes of HLA-A\*26 associated with slow progression to AIDS: *Biochem Biophys Res Commun* 366: 612-616, 2008, Epub 2007 Nov 19.
11. Gatanaga H, Honda H, Oka S: Pharmacogenetic information derived from analysis of HLA alleles. *Pharmacogenomics (review)* 9: 207-214, 2008.
12. Hachiya A, Kodama E, Sarafianos SG, Schuckmann MM, Matsuoka M, Takiguchi M, Gatanaga H, Oka S: Amino acid mutation, N348I, in the connection subdomain of HIV-1 reverse transcriptase confers multi-class resistance to NRTIs and NNRTIs. *J Virol* 82: 3261-3270, 2008, Epub 2008 Jan 23.
13. Tanuma J, Fujiwara M, Teruya K, Matsuoka S, Yamanaka H, Gatanaga H, Tachikawa N, Kikuchi Y, Takiguchi M, Oka S: HLA-A\*2402-restricted HIV-1-specific cytotoxic T lymphocytes and escape mutation after ART with structured treatment interruptions. *Microbes Infect* 10: 689-698, 2008, Epub 2008 Mar 29.
14. Kitano M, Kobayashi N, Kawashima Y, Akahoshi T, Nokihara K, Oka S, Takiguchi M: Identification and characterization of HLA-B\*5401-restricted HIV-1-Nef and Pol-specific CTL epitopes. *Microbes Infect* 10: 764-772, 2008, Epub 2008 Apr 22.
15. The Smart Study Group (Oka S as a principal investigator of the Sydney Regional Coordinating Center): Major clinical outcomes in antiretroviral therapy (ART)-naïve participants and in those not receiving ART at baseline in the SMART study. *J Infect Dis* 197: 1133-1144, 2008.
16. The Smart Study Group (Oka S as a principal investigator of the Sydney Regional Coordinating Center): Inferior clinical outcome of the CD4+ cell count-guided antiretroviral treatment interruption strategy in the SMART study: Role of CD4+ cell counts and HIV RNA levels during follow-up. *J Infect Dis* 197: 1145-1155, 2008.
17. Gatanaga H, Oka S: Successful genotype-tailored treatment with small-dose efavirenz. *AIDS (correspondence)* 23: 433-434, 2009.
18. Gatanaga H, Honda H, Tsukada K, Tanuma J, Yazaki H, Honda M, Teruya K, Kikuchi Y, Oka S: Detection of HIV-1 load by the Roche COBAS TaqMan assay in patients with previously undetectable load by the Roche COBAS Amplicor Monitor. *Clin Infect Dis (correspondence)* 48: 260-262, 2009.
19. Bi X, Suzuki Y, Gatanaga H, Oka S: High frequency and proliferation of CD4+FOXP3+ regulatory T cells in HIV-1 infected patients with low CD4 count. *Eur J Immunol* 39: 301-309, 2009, Epub 2008 Dec 16.
20. Koizumi H, Iwatani T, Tanuma J, Fujiwara M, Izumi T, Oka S, Takiguchi M: Escape mutation selected by Gag28-36-specific cytotoxic T cells in HLA-A\*2402-positive HIV-1-infected donors. *Microbes Infect* Epub 2008 Nov 24.
21. Fox Z, Phillips A, Cohen C, Neuhaus J, Baxter J, Emery S, Hirschel B, Hullsiek KH, Stephan C, Lundgren J; SMART Study Group (Oka S as a principal investigator of the Sydney Regional Coordinating Center): Viral resuppression and detection of drug resistance following interruption of a suppressive non-nucleoside reverse transcriptase inhibitor-based regimen. *AIDS* 22: 2279-2289, 2008.

22. Murakoshi H, Kitano M, Akahoshi T, Kawashima Y, Dohki S, Oka S, Takiguchi M: Identification and characterization of 2 HIV-1 Gag immunodominant epitopes restricted by Asian HLA allele HLA-B\*4801. *Hum Immunol Epub* 2009 Jan 21.
23. Kawabata KC, Hagiwara S, Takenouchi A, Tanimura A, Tanuma J, Tachikawa N, Miwa A, Oka S: Autologous stem cell transplantation using MEAM regimen for relapsed AIDS-related lymphoma patients who received highly active anti-retroviral therapy: a report of three cases. *Intern Med* 48: 111-114, 2009. *Epub* 2009 Jan 15.
24. Zhou J, Li PC, Kumarasamy N, Boyd M, Chen YMA, Sirisanthana T, Sungkanuparph S, Oka S, Tau G, Phanuphak P, Saphonn V, Zhang FJ, Kamarulzaman A, Lee CKC, Ditango R, Merati TP, Lim PL, Choi JY, Pujari S on behalf of the Treat Asia HIV Observational Database: Deferred modification of antiretroviral regimen following documented treatment failure in Asia: results from The TREAT Asia HIV Observational Database (TAHOD). *Clin Infect Dis* (in press)
25. Ishizaki A, Cuong NH, Thuc PV, Trung NV, Saijoh K, Kageyama S, Ishigaki K, Tanuma J, Oka S, Ichimura H: Profile of HIV-1 infection and genotypic resistance mutations to antiretroviral drugs in treatment-naïve HIV-1-infected individuals in Hai Phong, Viet Nam. *AIDS Res Hum Retrovirus* (in press)
26. Davaalkham J, Unenchimeng P, Baigalmaa C, Oyunbileg B, Tsuchiya K, Hachiya A, Gatanaga H, Nyamkhuu D, Oka S: High risk status of HIV-1 in the very low epidemic country, Mongolia, 2007. *Int J STD AIDS* (in press)
27. Kawashima Y, Pfafferoth K, Duda A, Matthews P, Addo M, Gatanaga H, Fujiwara M, Hachiya A, Kizumi H, Kuse N, Oka S, Brumme Z, Brumme C, Brander C, Allen T, Kaslow R, Tang J, Hunter E, Allen S, Mulenga J, Branch S, Roach T, John M, Mallal S, Heckerman D, Frater J, Prendergast A, Crawford H, Leslie A, Prado J, Ndung'u T, Phillips R, Harrigan R, Walker B, Takiguchi M, Goulder P. Adaptation of HIV-1 to HLA I. *Nature* (in press)
28. 下川千賀子, 森正昭, 辻典子, 山田三枝子, 上田幹夫: 針刺し(曝露)事故時のHIV感染症に関する対応についてのアンケート調査結果と対策. *石川県立中央病院医学誌* 30: 9-12, 2008.
29. WEB サイト. 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター <http://www.onh.go.jp/khac/>
30. 看護ガイド
31. Sasakawa A, Yamamoto Y, Yajima K, Sakai M, Uehira T, Sirasaka T, Makie T: Liposomal amphotericin B for a case of intractable cryptococcal meningoencephalitis and immune reconstitution syndrome. *J Med Invest* 55: 292-296, 2008.
32. 高田 昇: HIV 感染症の早期診断「平成20年度エイズ相談研修会」. 広島県医師会だより 506: 3-5, 2008.
33. 喜花伸子: エイズ相談研修会を実施して「平成20年度エイズ相談研修会」. 広島県医師会だより 506: 5, 2008.
34. 高田 昇: 内科医のためのエイズQ&A2008年度版. 広島市内科医会報 63: 49-53, 2008.
35. 鍵浦(後藤)文子: 医学系及び看護系大学における HIV 感染症教育の実態. *日本エイズ学会誌* 10(3): 162-163, 2008.
36. 高田 昇, 照屋勝治, 鍵浦(後藤)文子, 神馬征峰, Jamie Abdenadher, 矢野(五味)晴美: シンポジウム「医療者へのエイズ教育」. *日本エイズ学会誌* 10(3): 161, 2008.
37. 大下由美: 支援論の現在. 保健福祉領域の視座から. 世界思想社(京都市) 2008.
38. Minami R, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E, Yamamoto M: Human herpesvirus 8 DNA load in the leukocytes correlates with thrombocytopenia in HIV-1 infected individuals. *AIDS Res Hum Retroviruses*. 25(1): 1-8, 2009.
39. 吉川博政, 田上正, 山口泰, 玉城廣保, 樋口勝規, 山本政弘: HIV 感染者における歯科医療連携に関する研究. *日本エイズ学会誌* 10: 41-49, 2008.
40. 平成20年度 ブロック拠点病院・ACC エイズケア研修年間スケジュール ポスター. 看護師のための HIV/AIDS ケアQ&A (第2版)
41. Aoki M, Venzon DJ, Koh Y, Aoki-Ogata H, Miyakawa T, Yoshimura K, Maeda K, Mitsuya H: Non-cleavage Site Gag Mutations in Amprenavir-resistant HIV-1 Predispose HIV-1 to Rapid Acquisition of Amprenavir Resistance But Delays Development of Resistance to Other Protease Inhibitors. *J Virol* (in press), 2009.
42. Koh Y, Das D, Leschenko S, Nakata H, Ogata-Aoki H, Amano M, Nakayama M, Ghosh AK, Mitsuya H: GRL-02031: A Novel Nonpeptidic Protease Inhibitor (PI) Containing A Stereochemically Defined Fused Cyclopentanyltetrahydrofuran (Cp-THF) Potent Against Multi-PI-Resistant HIV-1 In Vitro. *Antimicrob Agents & Chemother* 53: 997-1006, 2009.
43. Ghosh AK, Chapsal BD, Baldrige A, Ide K, Koh Y, Mitsuya H: Design and Synthesis of Stereochemically Defined Novel Spirocyclic P2-Ligands for HIV-1 Protease Inhibitors. *Org Lett* 10: 5135-5138, 2008.



44. Ghosh AK, Gemma S, Takayama J, Baldrige A, Leshchenko-Yashchuk S, Miller HB, Wang YF, Kovalevsky AY, Koh Y, Weber IT, Mitsuya H: Potent HIV-1 protease inhibitors incorporating meso-bicyclic urethanes as P2-ligands: structure-based design, synthesis, biological evaluation and protein-ligand X-ray studies. *Org Biomol Chem* 6: 3703-3713, 2008.
45. Ghosh AK, Gemma S, Baldrige A, Wang YF, Kovalevsky AY, Koh Y, Weber IT, Mitsuya H: Flexible cyclic ethers/polyethers as novel P2-ligands for HIV-1 protease inhibitors: design, synthesis, biological evaluation, and protein-ligand X-ray studies. *J Med Chem* 51: 6021-6033, 2008.
46. Maeda K, Das D, Yin PD, Tsuchiya K, Ogata-Aoki H, Nakata H, Norman RB, Hackney LA, Takaoka Y, Mitsuya H: Involvement of the second extracellular loop and transmembrane residues of CCR5 in inhibitor binding and HIV-1 fusion: insights into the mechanism of allosteric inhibition. *J Mol Biol* 381: 956-974, 2008.
47. Kawamoto A, Kodama E, Sarafianos SG, Sakagami Y, Kohgo S, Kitano K, Ashida N, Iwai Y, Hayakawa H, Nakata H, Mitsuya H, Arnold E, Matsuoka M: 2'-deoxy-4'-C-ethynyl-2-halo-adenosines active against drug-resistant human immunodeficiency virus type 1 variants. *Int J Biochem Cell Biol* 40: 2410-2420, 2008.
48. Nakata H, Steinberg SM, Koh Y, Maeda K, Takaoka Y, Tamamura H, Fujii N, Mitsuya H: Potent synergistic anti-human immunodeficiency virus (HIV) effects using combinations of the CCR5 inhibitor aplaviroc with other anti-HIV drugs. *Antimicrob Agents Chemother* 52: 2111-2119, 2008.
49. Ghosh AK, Chapsal BD, Weber IT, Mitsuya H: Design of HIV Protease Inhibitors Targeting Protein Backbone: An Effective Strategy for Combating Drug Resistance. *Acc Chem Res* 41: 78-86, 2008.
50. Mitsuya H, Maeda K, Das D, Ghosh AK: Development of protease inhibitors and the fight with drug-resistant HIV-1 variants. *Adv Pharmacol* 56: 169-197, 2008.
51. Furuya K, Omura M, Kudo S, Sugiura W, Azuma H: Recognition profiles of microsporidian *Encephalitozoon cuniculi* polar tube protein 1 with human immunoglobulin M antibodies. *Parasite Immunol* 30(1):13-21, 2008.
52. Yoshida S, Gatanaga H, Itoh T, Fujino M, Kondo M, Sadamasu K, Kaneda T, Gejyo F, Shirasaka T, Mori H, Ueda M, Takata N, Minami R, Suigura W and the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network: Prevalence of drug resistance associated mutations in newly diagnosed HIV/AIDS patients in Japan from 2003-2007. *Antiviral Therapy* 13(3):A162, 2008.
53. Okuma K, Tanaka R, Ogura T, Ito M, Kumakura S, Yanaka M, Nishizawa M, Sugiura W, Yamamoto N, Tanaka Y: Interleukin-4-Transgenic hu-PBL-SCID Mice: A Model for the Screening of Antiviral Drugs and Immunotherapeutic Agents against X4 HIV-1 Viruses. *J Infect Dis* 197(1): 134-41, 2008.
54. Bandaranayake RM, Prabu-Jeyabalan M, Kakizawa J, Sugiura W, Schiffer C: Structural Analysis of Human Immunodeficiency Virus Type 1 CRF01\_AE Protease in Complex with the Subtype p1-p6. *J Virol* 82(13), 2008.

## HIV 脳症 5 例の臨床的特徴と経過

橋本 里奈<sup>1)</sup> 向井栄一郎<sup>1)</sup> 横幕 能行<sup>2)</sup> 間宮 均人<sup>2)</sup> 濱口 元洋<sup>3)</sup>

要旨：HIV 脳症 5 症例を報告した。1996 年から 2005 年 11 月の間に名古屋医療センターを受診した HIV 感染症 458 症例（うち AIDS は 127 症例）を対象とした。HIV 脳症と診断した症例はいずれも高度の免疫不全状態にあり、他の日和見感染症を 3 症例にのみとめた。4 症例は HIV 感染症が判明したのとほぼ同時期に HIV 脳症と診断された。5 症例とも HIV に対して抗ウイルス療法は未施行であった。HAART を施行することで全例で症状の改善をみとめ、死亡はみとめなかった。精神科介入を要したり 1 例を除いて社会復帰できないなど、行動障害を呈した HIV 脳症の機能予後は不良であり、HAART のみの治療効果は不十分と考えられた。

（臨床神経，48：173—178，2008）

Key words：HIV，AIDS，認知障害，行動異常，予後

## はじめに

HIV 感染症は病期が進行するにつれ日和見感染症など各種疾患を合併する。なかでも HIV 脳症は AIDS 指標疾患の 1 つであり、中枢神経領域における重要な合併症として挙げられる。亜急性から慢性に進行する記憶力低下、注意や意欲の低下、思考緩慢といった認知障害と、動作緩慢や失調性歩行などの運動障害を呈し、頭部 MRI T<sub>2</sub>強調画像や FLAIR 画像にて大脳白質から基底核にかけてびまん性の高信号を生じ皮質下は保たれることを特徴とする<sup>1)</sup>。しかし我が国では HIV 脳症の臨床報告は非常に少ない。そこでわれわれは、HIV 東海北陸ブロック拠点病院である当院で経験した HIV 脳症の自験 5 症例について、その臨床的特徴と経過について検討した。

## 対 象

1996 年から 2005 年 11 月に名古屋医療センター（以下当院）内科を受診した HIV 感染症のうち、神経内科に紹介された症例のうち HIV 脳症と診断されたものを対象とした。

## 方 法

当院内科より神経内科を紹介受診した HIV 感染症の症例に対し、著者の神経内科医 2 名によって神経学的診察、髄液検査、頭部 MRI を施行した。認知障害と運動障害の双方をみとめ、血液検査、髄液検査、各種画像検査にて代謝異常や日和見

感染症、悪性腫瘍等が除外されたものを HIV 脳症と診断し、神経学的所見、長谷川式簡易痴呆スケール（以下 HDS-R）もしくは Mini-mental State Examination（以下 MMSE）、CD4 陽性細胞数（以下 CD4）および血清 HIV ウイルス量、頭部 MRI にて経過を追跡した。

## 結 果

上記期間に累計 458 症例の HIV 患者が受診し、そのうち AIDS 発症者は 127 症例であった。AIDS のうち 25 例に中枢神経合併症をみとめた。中枢神経合併症の内訳は Table 1 にまとめた。HIV 脳症は 5 例にみとめた。HIV 感染症の感染経路は 5 例とも同性間性行為と推定された。全例で HAART を施行し、CD4 の改善と HIV ウイルス量の抑制をみとめた。以下、症例を提示する。

## 症例 1 37 歳男性

職業はデザイン関係。2003 年 8 月から微熱と歩行障害が出現し、同年 9 月に動けなくなり前医に入院した。10 月に尿閉が出現。頭部 MRI では大脳、脳幹にびまん性病変があり、ADEM もしくはウェルニッケ脳症と診断され、ステロイドパルス療法とビタミン B 大量を投与されるも効果なし。その後、HIV 抗体陽性と判明したため、12 月に当院に転院した。体温 38.6℃、臥床状態で、四肢の関節腫脹があった。自発的に開眼し、寡動。発語は「イタイ」など限られた単語のみであった。知能は HDS-R は 1 点（場所について「病院」を選択できた）、WAIS-R は判定不能。脳神経はほぼ正常であり、運動は指示にしたがえず評価不能。両側に強制把握をみとめた。上肢

<sup>1)</sup>国立病院機構名古屋医療センター神経内科 [〒460-0001 名古屋市中区三の丸 4-1-1]

<sup>2)</sup>同 感染症内科

<sup>3)</sup>同 臨床研究センター

（受付日：2007 年 5 月 11 日）

Table 1 Complications of HIV infection in central nervous system

	-July 2000	August 2000-April 2003	May 2003-November 2005
Toxoplasmic encephalitis	3	1	2
PML	2		1
Cryptococcal meningitis	1	1	1
Primary CNS lymphoma	1	1	
HIV encephalopathy			5
Tuberculous meningitis			1
Cytomegaloviral encephalitis			1
Other		Unknown 1 Amebic encephalitis 1	Viral meningitis 1 Hydrocephalus 1
Total	7	5	13
HIV infectious cases (AIDS cases)	106 (19)	231 (56)	363 (127)
Rate of CNS complications with AIDS	36.8%	8.9%	9.4%

PML: Progressive multifocal leukoencephalopathy

Table 2 Counts of CD4+ lymphocytes and HIV viral load before and after HAART

	Case 1	2	3	4	5
CD4+ lymphocytes (before → after HAART) (/μl)	71 → 276	11 → 281	8 → 74	17 → 244	5 → 359
HIV viral load (before → after HAART) (copies/ml)	2.1 × 10 <sup>6</sup> → < 50	5.3 × 10 <sup>6</sup> → < 50	5.3 × 10 <sup>6</sup> → < 50	1.2 × 10 <sup>7</sup> → 1.2 × 10 <sup>5</sup>	1.3 × 10 <sup>6</sup> → < 50

Table 3 Findings of cerebrospinal fluid at time of HIV encephalopathy diagnosis

	Case 1	2	3	4	5
Cell counts (/μl)	2	5	7	3	47
Protein (mg/dl)	45	46	50	25	81
Glucose (blood glucose) (mg/dl)	29 (80)	48 (100)	48 (126)	48 (96)	25 (244)
β-2 microglobulin (μg/ml)	71	—	—	3.5	3.7
HIV viral load (copies/ml)	5.9 × 10 <sup>6</sup>	—	1.7 × 10 <sup>6</sup>	1.8 × 10 <sup>6</sup>	9.3 × 10

—, not examined.

に振戦があり、四肢に筋強剛をみとめた。腱反射は全体に減弱し、バビンスキー徴候は両側陽性。尿閉のため尿道カテーテルが留置されており便失禁状態であった。血液検査(Table 2)ではCD4 71/μl, HIVウイルス量 2.1 × 10<sup>6</sup>copies/ml, HBs抗原陽性であり、HCV抗体、梅毒、β-D-グルカン、サイトメガロウイルス C10/C11抗原、トキソプラズマIgM/IgG抗体、クリプトコッカス抗原はいずれも陰性であった。髄液検査(Table 3)では細胞数2/μl, 蛋白45mg/dl, 糖29mg/dl, HIVウイルス量 5.9 × 10<sup>6</sup>copies/ml, β-2ミクログロブリン7.1μg/ml, 墨汁染色陰性、結核菌、非定型抗酸菌、サイトメガロウイルス、JCウイルスのPCRはすべて陰性であった。また、一般細菌、抗酸菌、真菌培養はいずれも陰性で、細胞診も陰性であった。脳波は6~7Hzの全般性徐波をみとめた。神経伝導速度では上肢は筋電図混入が強く判定不能で、下肢はF波をふくめ正常であった。入院時頭部MRI (Fig. 1)では、脳幹および大脳白質にびまん性に広がる高信号域をみとめた。

以上から、HIV脳症と診断し、発熱の原因はカテーテル留

置にともなう尿路感染症と思われた。2004年1月よりHAARTを施行し、その約1カ月後より発動性と運動障害は改善したが、下肢関節は拘縮変形のため立位歩行はできなかった。6カ月後のHDS-R 17点、WAIS-Rは言語性IQ 88、動作性IQ 69、全体IQ 77。20カ月後にはHDS-R 22点と、認知機能障害は不完全ながらも徐々に改善傾向を示した。HAART開始1カ月後においてCD4 201/μl, HIVウイルス量 2.3 × 10<sup>5</sup>copies/mlと改善し、22カ月後ではCD4 226/μl, ウイルス量は検出感度以下とさらに改善した。しかし、人格変化がいちじるしく、周囲に対して攻撃的言動をとったり、夜間大声で叫ぶなどの精神症状が強かったために精神科介入による投薬をおこない、約1年後に施設入所となった。頭部MRIの経時変化をFLAIR画像 (Fig. 1)にて検討すると、両側左右対称性の脳前頭葉から基底核にかけて白質の萎縮が進行していた。

症例2 35歳男性

27歳時に梅毒の既往がある。2004年6月、乾性咳嗽、労作

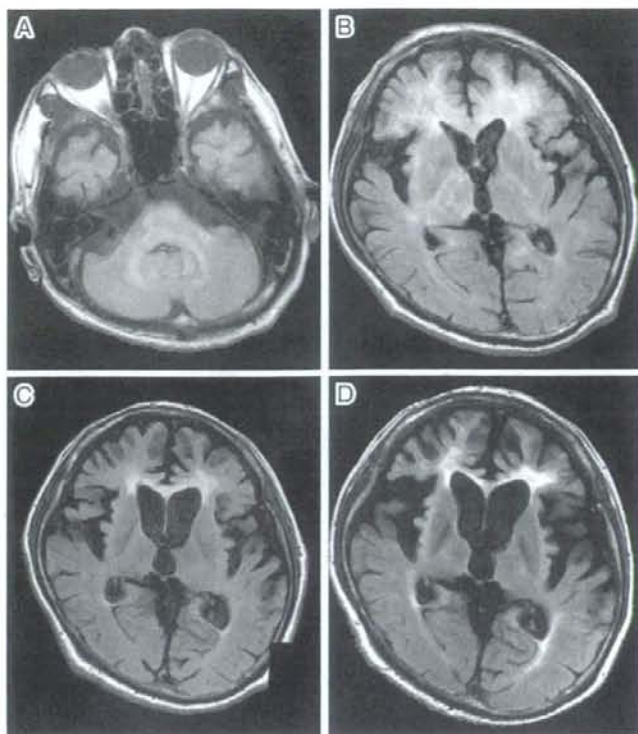


Fig. 1 Brain MRI (FLAIR) of case 1

A and B which were done at admission, revealed a diffuse lesion with high signal in the brain stem, cerebellar peduncles and cerebral white matter, atrophy of the basal ganglia and frontal lobes. C and D, which were done at 6 and 31 months respectively after HAART, showed that diffuse cerebral atrophy in the white matter had remarkably progressed.

時呼吸苦が出現。同年8月、発熱、呼吸苦にて前医入院した際に HIV 抗体陽性と判明し、カリニ肺炎と診断され治療を受けた。その頃からものわすれ、ふらつきを自覚。同年9月、当院に転院した。転院時、発動性の低下、動作緩慢、起居動作や歩行時にふらつきがあり、つき足歩行は不可能であり、その他の脳神経や筋力、感覚、腱反射には異常をみとめなかった。神経心理検査では、HDS-R 24点、WAIS-R は言語性 IQ 86、動作性 IQ 65、全体 IQ 74 と認知機能障害をみとめた。また、50音表を書くのに80秒かかり、立方体模写はできないなど、動作速度の低下や空間能力低下をみとめた。カリニ肺炎治療終了の1カ月後より HAART を開始したが、ふらつきの悪化、部屋をまちがえたり、前日のでき事を忘れてしまったことがしばしばにみだつようになった。入院1カ月後に施行した頭部 MRI にて T<sub>2</sub>強調画像で両側前頭葉白質に左右対称性にびまん性に広がる高信号域をみとめ、HIV 脳症と診断した。HAART 開始5カ月後の神経学的診察では異常をみとめなかったが、MMSE は 28 点と認知機能障害の残存をみとめた。診断から約1年後、不安焦燥感を執拗に訴えて本人の強い希望で緊急入院したが、入院翌日に院内備品を持ち出したところを地下

鉄職員に見えられ、窃盗のうたがいで警察の事情聴取を受けた。その後、外来を不定期受診している。

#### 症例3 51歳男性

職業は会社経営。2004年5月に全身倦怠感と発熱が出現。同年6月に異常言動と失見当識が加わりしだいに傾眠となったため前医に入院し、HIV 抗体陽性と判明したため7月、当院に転院した。転院時 MRI では T<sub>2</sub>強調画像にて両側基底核に小病変をみとめた。当初、意識障害の原因としてクリプトコッカス髄膜炎、トキソプラズマ脳炎をうたがいで治療を開始したが、血清および髄液中のクリプトコッカス抗原ならびに血清トキソプラズマ抗体は陰性であった。血液培養から非定型抗酸菌が検出され、発熱は非定型抗酸菌敗血症によるものと診断し抗菌剤にて改善した。また、CD4 4 $\mu$  と低値であったため HAART を施行した。その後、意識障害は改善し、尿失禁を残すも他の日常生活動作は自立となり約4カ月後に退院した。退院前後よりしだいに躁状態となり、入院中に高価な身の回りの品を換金して無断外出をしたり、退院後は妻が外出している隙に知人と旅行に行くといった行動障害が出現した。服薬アドヒアランスも不良となり、ふらつきが悪化し歩行困